



《こども版》 としょかんだより No. 317

12月号

わくわく本だな

富山市立図書館

今月のおすすめ



= 1・2年
= 3・4年
= 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—

「クリスマスのおいさなおくりもの」 (えほん)

アリスン・アトリー / 作 福音館書店



お母さんがびょうきになり、クリスマスのおいわいのしたくができなかった家がありました。夜中、この家のねことねずみたちがそうだんして、クリスマスのしたくをすることにしました。くつしたを下げたりケーキをやいたり、かざりつけをしたりと、大いそがしです。

「音楽室の日曜日」

村上 しいこ / 作 講談社

ここは小学校の音楽室。楽器たちが日曜日に、がっしょうの練習をしています。でも、けんかばかり。なんとか曲がきまり、ピアノをひくためにしょうぞう画の中からベート - ベンに出てきてもらいましたが、体がかたくてピアノがうまくひけません。



「はれときどきあまのじゃく」

矢玉 四郎 / 作 岩崎書店



みんなから「あまのじゃく」と言われたぼくは、意味をパソコンで調べてみた。“人のいうことやすることに、なんでも反対する人のこと”だって。アマノジャクの写真をうっかりクリックしたら、そいつが外に飛び出してしまった！アマノジャクは、なんでも反対にしまって、そのうち、世界中大さわぎになったんだ。

あたらしくはいった本

えほん

「ナミチカのきのこがり」 降矢 なな / 作 童心社



ナミチカは、おじいちゃんと森にきのこがりにいきました。どんどん森のおくに入ったナミチカは、赤いキノコがわになってはえているのをみつけます。ちかづくと、とつぜんキノコたちがリズムにあわせておどりだしました。

ものがたい



「うらやましや ゆうれい」 菊田 澄子 / 作 佼成出版社

びんぼうなはつつあんおやこが、ぼろぼろのながやにひっこしてきました。その夜、ゆうれいがやってきて、いろいろなものをうらやましがりました。つぎのあさおきると、ふとんやきもの、竹うまがありません。みんなうらやましや ゆうれいがもっていったのです。

「エレベーターは秘密のとびら」 三野 誠子 / 作 岩崎書店

マンションに住むリセは、ある日、エレベーターのボタンをまちがえておしました。あわてておりた階は、美術館のように立派で、次におりた階は牧場みたいでした。こんな不思議な体験をしたのは、リセだけではないようです。さっそく、友だち二人とナゾをさぐることにしました。



ことばであそぼう！

方言

全国それぞれの地方だけで使われている言葉が方言です。アクセントも違って、実際に耳で聞くと楽しいです。

ありがとう を、富山では **きのどくな** と言いますが、鳥取や島根では **だんだん** と言います。捨てる は **なげる** (東北) や **ほかす** (近畿)、寒い は **しばれる** (北海道) と言うんですよ。

「みんなが知りたい！いろいろな方言がわかる本」(メイツ出版)
「方言と地図」(フレーベル館) など



ものがたり

「 11をさがして 」

パトリシア・ライリー・ギフ / 作 文研出版



読み書きがうまくできない障害を持つサムは、おじいちゃんと暮らしています。ある夜、屋根裏部屋で、自分の3歳のころの写真と“行方不明”という文字がのっている新聞記事を見つけました。気になったサムは、転校生のキャロラインに記事を読んでもらうことにしました。

「 さすらい猫ノアの伝説 」

重松 清 / 作 講談社



健太の前に、首に風呂敷包みを巻いた黒猫が現れました。包みの中には、「猫の名前はノア。学校をわたり歩く“さすらい猫”で、あなたたちのクラスが忘れた大切なことを思い出させてくれる」と書かれた、他の小学校からの手紙が入っていました。ノアのなぞの行動を追いかけうち、健太たちは、忘れていたクラスの合言葉“勇気リンリン”を思い出します。

ちしきの本

「 ウサギの絵本（そだててあそぼう） 」

たけだ りりこ / 作 農山漁村文化協会



来年はウサギ年ですね。みなさんは、ウサギといたらどんな姿を思いうかべますか？ウサギの毛の色は、白だけでなく茶色や灰色もあります。また、耳の形や目の色もさまざまです。ウサギを“1羽

、2羽”と数えるのはなぜでしょう？その理由や人との関わり、種類や育て方がのっていて、ウサギのことがよくわかる一冊です。

「 ポスターをつくろう！ 注目されるコピーを書こう！ 」

デジカル / 作 汐文社



ポスターを作るとき、言葉や文章はとても重要です。これを“コピー”と言います。伝えたいことを書き出したり、下調べをして、コピーを作ってみましょう。この本では、ポスターのレイアウト（文字や絵の配置）やレタリング（文字のデザイン）についても、例をあげて紹介しています。

名作をよもう!

今月の1さつ

「子うさぎましろのお話」 (えほん)

ささき たづ / 作 ポプラ社



白うさぎの子“ましろ”は、サンタクロースのおじいさんから、クリスマスの
おくりものを一番最初にもらいました。

でも、またおくりものがほしくなったましろは、べつのうさぎになることを思
いつきます。まっ白な体にすみをこすりつけて黒くして、おじいさんにもう一度お
くりものをねだりました。おじいさんは、黒いうさぎの子がましろだとわかって
いましたが、小さな種をくれました。

ところが、家へのかえり道、どんなにはらってもこすっても、ましろの体のす
みがとれなくなってしまったのです。



とやまし あ・れ・こ・れ

セントラム

去年の12月に開通したセントラム。10分間隔で市内中心部を
環状(わっか)に走る路面電車で、床が低くて乗りやすく、市民の
足として利用されています。車体を2両または3両につなぎ、白、銀、
黒の三種類あります。季節や行事にあわせて、デザインが変わるの
も楽しみですね。また、便利なICカード“えこまいか”もありま
すよ。



< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7273